

新詳地理探究

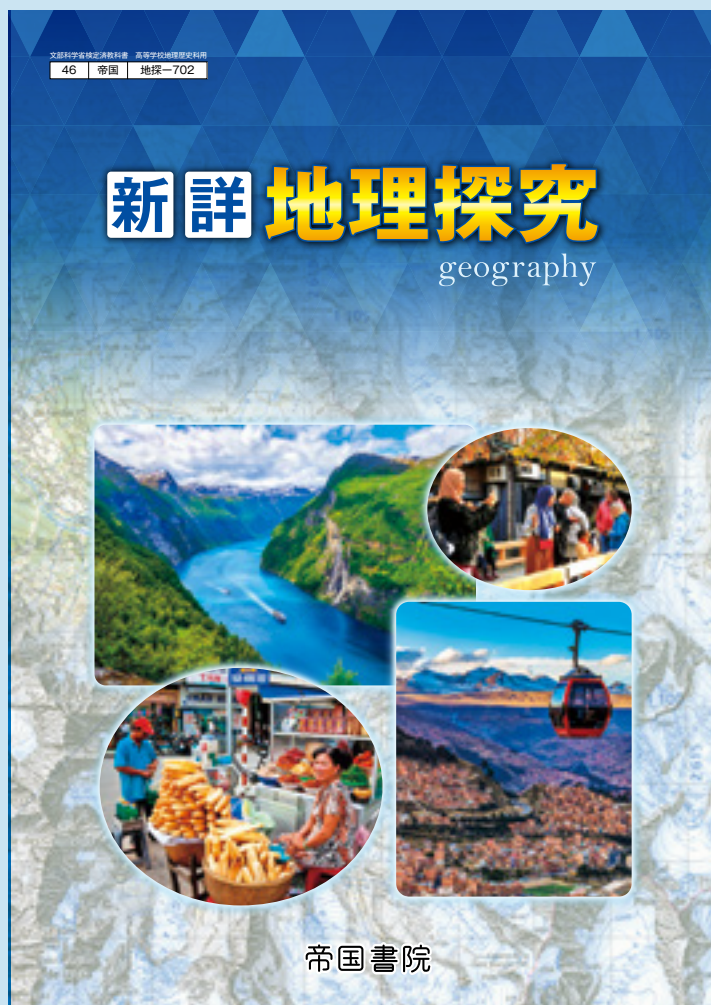
内容解説資料

部分サンプル

地探-702

# 指導資料・関連教材 カタログ

- 指導資料Webサポートコンテンツ付 ..... p.2
- 教科書準拠ノート ..... p.8
- デジタル準拠ノート ..... p.10



 帝国書院

\*本冊子に掲載している内容は、一部変更となる場合があります。

新詳地理探究

指導資料 Web サポートコンテンツ付

(1) 指導資料

◆ 単元ごとに板書事項や発問例、授業を深める詳しい「図版・写真解説」や「本文解説」、「確認」の解答・解説を掲載しています。

↓ 教科書 p.128-129 に対応したページの例

教科書 p.128 ~ 129

第1部 第2章 第5節 工業

4 現代世界の工業の現状と課題

(1) 繊維工業

学習のポイント 繊維工業が盛んな地域とその理由、アパレル産業で進む国際分業のしくみを理解し、アジア諸国とヨーロッパ諸国の繊維工業の違いについて考える。

指導内容の整理 (板書例)

◆ 新興国・発展途上国で進む繊維工業

- 繊維工業: 綿花、羊毛、ナイロンなどの繊維原料を加工する工業
- 経緯 (糸をつむぐ)、織造 (糸を織って布をつくる)、縫製 (布から衣服などをつくる)
- アパレル産業: 衣服の生産と流通を併せた産業の名称
- 古くから世界各地で、天然繊維を原料とする繊維工業が営まれてきた
- 20世紀 化学繊維 (ナイロンやポリエステルなど) の発明 → 化学繊維の割合が高まる
- 近年 新たな繊維の開発も進む (例) 炭素繊維 (航空機用の部品、高強度繊維)
- 労働力削減の進展: 人工賃金が安く、多くの労働者を確保できる地域に立地
- 1980年代 - 先進国から発展途上国への生産拠点の移動 → 中国は世界最大の繊維工業国に成長
- 近年 中国より人件費が安いベトナム、ミャンマーなどへ、次々と生産拠点が移転

◆ アパレル産業で進む国際分業

- 消費地と生産地の相違: 市場は先進国、生産は発展途上国
- アパレル産業の国際分業の発達と密接な関係
- 先進国のアパレルメーカー: ファブリス企業 (製造拠点を自社に保有しない)
- 企画・開発や販売などに特化、生産自体は委託するビジネスモデル
- 生産を委託された企業: 多くは自社ブランドをもたず、縫製などの生産機能に特化
- 価格・品質・納期などで競合 売り上げはアパレルメーカーからの加工費に依存
- 人件費の安い発展途上国・地域で契約工場を置くこと競争上優位 (例) バングラデシュ

◆ ヨーロッパの高級繊維産業

- ヨーロッパのアパレル産業: 付加価値の高いブランド品に特化した高い付加価値 (より生産)
- 顧客の個別注文に応えることで成立 → 後に高級製靴への展開によって発展
- 全粒に高級感 → 名前や知名度、信頼に価値の源泉
- バッグや靴などの皮革製品、各種装飾品や宝飾品などよりブランド
- 世界のファッション産業をけん引
- パリ、ミラノなど、歴史あるブランドや新興ブランドの本拠が数多く立地
- 近年、EUに加盟した東ヨーロッパに生産工場を置くブランドも出現

図版・写真解説

p.128図 「輸出に占める繊維製品の割合と主な国・地域の衣服の輸出入」/ 図 「主な繊維製品の生産国」

先進国では繊維の生産は減少しているが、世界全体では成長産業であり、中国やインドを中心に生産は拡大している。繊維原料には綿花や絹、羊毛のような天然繊維と、石油を原料とする化学繊維 (合成繊維) がある。こうした繊維原料を糸や繊維に加工する工業が繊維工業である。繊維製造では綿花を機械でむいて糸が製造される。2020年の綿花の生産は中国、インド、アメリカ合衆国の順であるが、中国は世界最大の綿花輸入国でもあり、綿糸の生産量は世界の7割を超えている。アメリカ合衆国とインドは、それぞれ世界第1位と第2位の綿花輸出国であるが、綿花の生産と比べると綿糸の生産量は対称に少ない。綿織物は綿糸を原料とする織物・布地全般を指し、縫製を用いて製造される。生産上位国は綿糸と同じ順位であるが、中国の割合が低下している。

化学繊維の生産は中国が約7割を占めており、綿糸と並んで世界生産の中心である。中国は繊維工業の加工上流である紡績・前織のみならず、川中部門の染色加工においても世界最大の割合を占めている。そこで生産された衣服は、アメリカ合衆国、日本、EUなど、世界各地に輸出されている。

p.129図 「ファブリス企業のしくみ」

ファブリス企業は製造を他社に委託していることから、通常ならば製造メーカーが担う工場建設などの大きな初期費用が不要となる。そして、その企業は販売促進や商品開発などの業務に専念できる。市場のニーズや変化などに対応しやすいといった長所がある。一方で、製造を委託しているため、生産に関わる技術の維持・継承が難しくなる。国外に製造を委託した場合は国内の産業が空洞化するなどの短所もある。現在、ファブリス企業は Apple 社や任天堂など国内外のさまざまな分野でみられ、半導体や電気・電子だけでなく、飲料、衣類、インテリアなどの分野にもファブリス化が進んでいる。なお、ファブリス企業から委託されて半導体デバイスなどの製造を専門に行う企業は、ファウンドリ企業とよばれている。

p.129図 「バングラデシュの繊維工場」/ 図 「アジアの主な都市における日本の輸出入 (製造業) の貿易状況」

繊維・縫製産業は技術的な水準が比較的低く、労働集約的な産業であるため、低賃金で多くの労働力が必要とされる。バングラデシュの人口は1億6822万 (2020年) で、日本と同じような規模を有しているが、1人あたりのGNIを比較すると、日本が4万540ドルであるのに対して、バングラデシュは2010ドル (2020年) である。このような賃金水準の差を生かし、安価に生産可能な労働力を背景とした、衣類・繊維産業がバングラデシュの主要産業となっている。その結果、輸出に占める衣類や繊維品の割合は約8割 (2017年) となっている。近年はファブリス企業の YKK や、ユニクロを展開するファーストリテイリングなどの日本企業の進出も続いている。

p.129図 「ブランド品のバッグの製造」

バッグでは、「第3のイタリア」 (p.340) とよばれる地域を中心に、熟練した技術をもつ職人によって高級バッグがつくられてきている。生産工程の合理化によって安価な製品が大量に製造される時、バッグをはじめとする高級な皮革製品は、依然として高い技術をもった職人の手によって製造されており、ヨーロッパでつくられてきた伝統技術を生かすことができる。こうした製品をつくる中小企業や職人の間には緊密なネットワークがあり、市場の動向に敏感に対応しながら、付加価値の高い製品を生産している。同様のネットワークは、縫製、家具、楽器などを製造する企業間にもみられる。

本文解説

繊維工業 (p.128-129 1行目)

繊維工業は、動物や植物に由来する天然繊維や化学のプロセスを経て製造される化学繊維を原料として糸や織物を生産し、またそれらを加工して衣服などを製造する工業である。綿花や羊毛、絹が天然繊維を代表する。綿花はむくから綿糸をとり出され、18世紀のイギリスでインド産綿花を用いた紡績機の発明が産業革命を引き起こしたことで知られる。羊毛は、綿花が導入する以前のヨーロッパでは一般的な繊維原料であり、フランス地方やヨークシャー地方で羊毛工業が盛んであった。しかし、繊維工業のように機械化が進まなかったこともあり、徐々に綿織物に置きかわられていった。

絹は養蚕により獲得される繊維であり、生糸や絹織物に加工される。歴史的には中国が生産の中心であり、ヨーロッパ諸国との間で重要な貿易品となった。日本でも明治時代に絹織産業の一端として生産が拡大し、生糸の生産は一時世界最大となった。

一方、化学繊維の原料は石油である。ナイロンやポリエステル、アクリルは化学繊維の代表である。1950年代にポリエステルを使った衣服が広まって以降、繊維生産に占める化学繊維の割合が増加している。

↓ 教科書 p.102-103 に対応したページの例①

教科書 p.102-103

探究 TRY 3 農業と食料供給の地域性

図版・写真解説

p.102図 「小麦の収穫」

フランスは国土の約半分が農地で、ヨーロッパで最大の農業国である。農産物が主体で、大規模な農地で小麦や大豆を主に生産している。小麦や大豆の収穫を専門に行っている。食料供給が安く、小麦をはじめ多くの農産物を輸出している。

パリ盆地には、傾斜が急峻な傾斜や緩やかな傾斜が交互に組み合わさって丘陵地帯となっており、小麦や大豆の栽培に適している。日当たりがよくなる金剛山は、小麦や大豆の栽培に適している。

p.102図 「主な国の農業生産性と土地生産性」

生産量を面積で割った数値が土地生産性、農業従事者数で割った数値が労働生産性である。サハラ以南アフリカの国々は、自然環境に依存した伝統的な農業が中心で生産性が低く、土地生産性も低い傾向がある。アジアでは高収量品種が導入されて肥料投入も増えている国が多く、人口密度が高いため土地生産性は高いが労働生産性は低い傾向にある。南北アメリカ大陸やオーストラリア大陸の国々は、広大な農地に対して労働力が少ないため、機械を導入して労働生産性を高めている。アメリカ合衆国を除いて土地生産性はアジアが最も高く、ヨーロッパの国々は、土地生産性も労働生産性も高い傾向にある。

p.102図 「世界の経済圏と主要な輸送品」

農業の国際分業が進むと、国際的な輸送網は上流階級にある。新興国における経済成長と食料需要の増大、CO2削減目標の達成のため、世界的な原油価格の高騰に対応するためのバイオ燃料生産の増大が、穀物需要を引き上げたためである。穀物貿易網で輸送の割合が高いのは、アルゼンチン、オーストラリア、フランスなど小麦、ソウジなどの小麦類である。日本は供給条件に恵まれた国際に位置するが、農業政策などにより輸入依存度が高まり、結果として穀物貿易網は輸入が中心となっている。

穀物貿易網において輸入が大幅に超過している国については、その国の経済や人口に密着した関係性による点を理解しておく必要がある。例えば中国は世界最大の穀物生産国であるが、人口も最大であるとともに食生活の高度化で肉類の消費が増え、飼料用穀物の需要が高まり、現在では主要な穀物輸入国になっている。

↓ 教科書 p.102-103 に対応したページの例②

TRYの解答

TRY1

- 【解答】ヨーロッパは労働生産性と土地生産性が高いが、アフリカはともに低くなる。
- 【解答】エチオピアなど農業の多いアフリカの国々は、穀物の生産性が低く、人口の増加に穀物の需要が増えるため、食料不足に陥っている。食料不足を解消するために食料供給が安く、小麦をはじめ多くの農産物を輸出している。
- 【解答】小麦は、成長期に冷涼で乾燥、成熟後に温暖する気候下での栽培に適する。在来品種は500-750mmが目安である。世界各地で栽培され、アフリカや南アメリカでは農業的発展による作物として栽培されている。生産量の約4分の1 (2019年、一時的に減少) は輸出向けであり、ロシア、アメリカ合衆国、カナダ、フランス、オーストラリア、ウクライナなどが、代表的な輸出国である。
- 【解答】小麦は、世界最大の小麦生産国である。世界生産量の約30%以上を占めている (2019年)。これは地中海性気候のアメリカ西部やオーストラリア西部も産地であり、黒川内河の小豆島も栽培されている。オリーブは秋に収穫し、冬に乾燥して高品質になる。果実と種子には油分が豊富に含まれており、これをプレスしてオリーブオイルとする。また多くの農業は地味にされ、地中海地方の料理に欠かせない食材となっている。

TRY2

- 【解答】1人あたりの生産量と供給量が同程度である国が多いのは、米である。米は生産国で消費する自給的作物としての性格が高いが、小麦は企業間の貿易による国際分業の発展によって生産と供給の両方とも高まっている。
- 【解答】米はフランス、小麦を中心とした穀物生産が盛んなヨーロッパ諸国は、自給的作物であり、食用穀物の自給率が高い。
- 【解答】米はフランス、小麦を中心とした穀物生産が盛んなヨーロッパ諸国は、自給的作物であり、食用穀物の自給率が高い。

TRY3

- 【解答】1人あたりの生産量と供給量が同程度である国が多いのは、米である。米は生産国で消費する自給的作物としての性格が高いが、小麦は企業間の貿易による国際分業の発展によって生産と供給の両方とも高まっている。
- 【解答】米はフランス、小麦を中心とした穀物生産が盛んなヨーロッパ諸国は、自給的作物であり、食用穀物の自給率が高い。
- 【解答】米はフランス、小麦を中心とした穀物生産が盛んなヨーロッパ諸国は、自給的作物であり、食用穀物の自給率が高い。

本文解説

自然条件のほか社会条件が農業に関連している (p.102-103 5行目)

主な食料品は気候条件に大きく影響を受けるが、宗教などの文化的影響も関係している。例えば小麦は、ヨーロッパから西・中央・東アジアにわたる広域でよく食される。しかし、ヨーロッパの内陸部では小麦よりも大麦やライ麦といった飼料用穀物が多く食され、ロシアでもライ麦やトウモロコシが飼料用穀物としてよく食される。一方、イスラーム圏である中東地域や中国西部や南アジアは小麦を食するもの、やがて主食のパンを多く消費するため、パンの消費が激しい。

小麦は、成長期に冷涼で乾燥、成熟後に温暖する気候下での栽培に適する。在来品種は500-750mmが目安である。世界各地で栽培され、アフリカや南アメリカでは農業的発展による作物として栽培されている。生産量の約4分の1 (2019年、一時的に減少) は輸出向けであり、ロシア、アメリカ合衆国、カナダ、フランス、オーストラリア、ウクライナなどが、代表的な輸出国である。

このような国々、黒川内河の小豆島も栽培されている。オリーブは秋に収穫し、冬に乾燥して高品質になる。果実と種子には油分が豊富に含まれており、これをプレスしてオリーブオイルとする。また多くの農業は地味にされ、地中海地方の料理に欠かせない食材となっている。

図版・写真解説

農業と食料供給の地域性

農業の国際分業が進むと、国際的な輸送網は上流階級にある。新興国における経済成長と食料需要の増大、CO2削減目標の達成のため、世界的な原油価格の高騰に対応するためのバイオ燃料生産の増大が、穀物需要を引き上げたためである。穀物貿易網で輸送の割合が高いのは、アルゼンチン、オーストラリア、フランスなど小麦、ソウジなどの小麦類である。日本は供給条件に恵まれた国際に位置するが、農業政策などにより輸入依存度が高まり、結果として穀物貿易網は輸入が中心となっている。

定価: 25,300円 (本体 23,000円+税) ISBN: 978-4-8071-6651-0

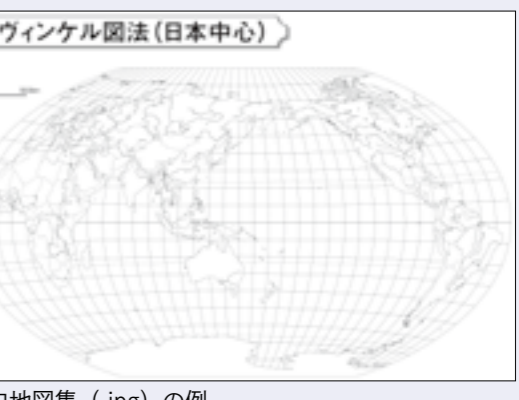
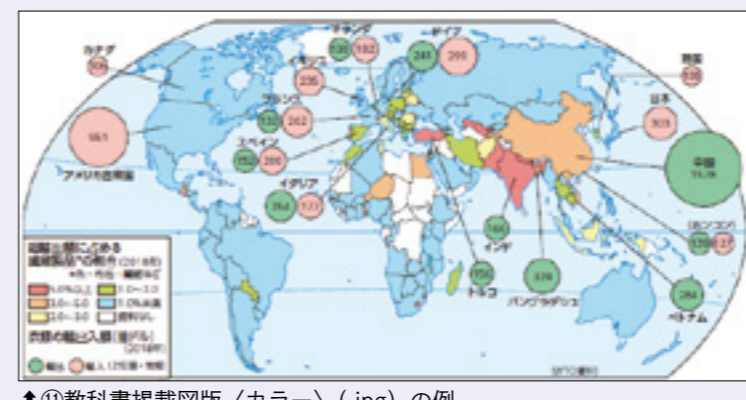
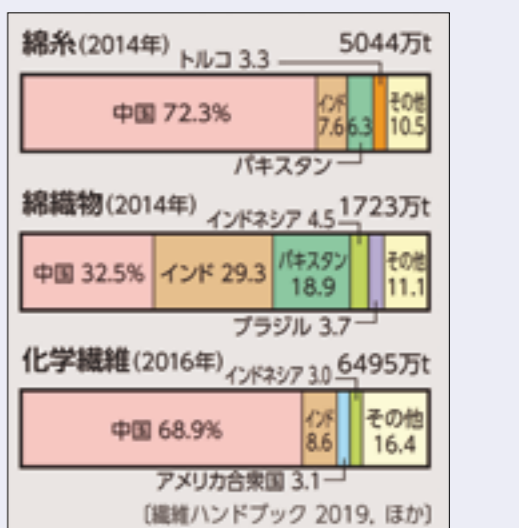
内容: (1) 指導資料 B5判 / 400ページ (2) 指導書 Web サポート

(2) 指導書 Web サポート

- ◆ 授業スライドや授業プリントなど、オリジナル教材の作成にも役立つデジタルコンテンツをご利用いただけるサービスです。
- ◆ 帝国書院ウェブサイトから会員ページにログイン後、アクセスキーをご入力いただくことで、コンテンツ一覧ページにアクセスできます。
- ◆ ご利用いただけるデジタルコンテンツは、下記の通りです。

- ① 授業スライド (.pptx/Google スライド)
  - ② 授業プリント (.docx)
  - ③ 見通し・振り返りシート (.xlsx)
  - ④ 特設ページワークシート (.docx)
  - ⑤ 評価問題例 (テスト例) (.docx)
  - ⑥ 映像資料
  - ⑦ 年間指導計画案・評価規準例 (.xlsx)
  - ⑧ 板書例 (.txt)
  - ⑨ 教科書紙面 (.pdf)
  - ⑩ 教科書本文 (.txt)
  - ⑪ 教科書掲載図版 (カラー/モノクロ) (.jpg)
  - ⑫ 『新詳地理探究 演習ノート』データ (.docx)
  - ⑬ 教科書 QR コンテンツ (一問一答) (.xlsx)
  - ⑭ 教科書 QR コンテンツ (用語解説) (.xlsx)
  - ⑮ 白地図集 (.jpg)
  - ⑯ GIS 主題図クリエーター (体験版) へのリンク \*
- \* クーポンを登録してから半年間利用可能。

↑ 教科書紙面 (.pdf) の例





(1) 指導資料

内容をCheck!

◆単元ごとに構成しています。前半には授業展開例として、板書事項などを示した「指導内容の整理(板書例)」「地図帳活用例」などを記載、後半には「図版・写真解説」や「本文解説」を記載しています。

↓教科書 p.128-129 に対応したページの例

**教科書 p.128 ~ 129**

第1部第2章5節 工業

**4 現代世界の工業の現状と課題**

**(1) 繊維工業**

**学習のポイント** 繊維工業が盛んな地域とその理由、アパレル産業で進む国際分業のしくみを理解し、アジア諸国とヨーロッパ諸国の繊維工業の違いについて考える。

**指導内容の整理(板書例)**

- **新興国・発展途上で盛んな繊維工業**
  - ▶ **繊維工業**：綿花、羊毛、ナイロンなどの繊維原料を加工する工業
    - … **紡績**(糸をつむぐ)、**織物**(糸を織って布をつくる)、**縫製**(布から衣服などをつくる)
    - … **アパレル産業**：衣服の生産と流通を併せた産業の名称
    - ・古くから世界各地で、**天然繊維**を原料とする繊維工業が営まれてきた
    - ・20世紀 **化学繊維**(ナイロンやポリエステルなど)の発明 … 化学繊維の割合が高まる
    - ・近年 新たな繊維の開発も進む (例)炭素繊維(航空機の部品、耐震補強)
  - ▶ **労働力指向型の工業**：人件費が安く、多くの労働者を確保できる地域に立地
    - ・1980年代～ 先進国から発展途上国への生産拠点の移動 中国は世界最大の繊維工業国に成長
    - ・近年 中国より人件費が安いベトナム、ミャンマーなどへ、次々と生産拠点が移転
- **アパレル産業で進む国際分業**
  - ▶ **消費地と生産地の相違**：市場は先進国、生産は発展途上国
    - ・アパレル産業の**国際分業**の発達と密接な関わり
    - ・先進国のアパレルメーカー：**ファブレス企業**(製造施設を自社で保有しない)
      - … 企画・開発や販売などに特化、生産自体は他社に委託するビジネスモデル
    - ・生産を委託された企業：多くは自社ブランドをもたず、縫製などの生産機能に特化
      - … 価格・品質・納期などで競合 売り上げはアパレルメーカーからの加工費に依存 人件費の安い国・地域で契約工場を置くことが競争上優位 (例)バングラデシュ
- **ヨーロッパの高級ブランド**
  - ▶ **ヨーロッパのアパレル産業**：付加価値の高い**ブランド**品に特化(職人の高い技術により生産)
    - ・顧客の個別注文に応えることで成立 → 後に高級既製服への展開によって発展
    - ・全般に高価格 → 名声や知名度、信頼に価値の源泉
    - ・バッグや靴などの皮革製品、各種装飾品や宝飾品まで扱うブランド
      - … 世界のファッション産業をけん引
      - パリ、ミラノなど、歴史あるブランドや新興ブランドの本拠が数多く立地
      - 近年、EUに加盟した東ヨーロッパに生産工場を置くブランドも出現

**地図帳活用例** 1) 図p.20 [Focus] ②で、中国の輸出品・輸入品やその変化から衣類と繊維の傾向を読み取る。  
2) 図p.33~34 ①で、インドやバングラデシュ、パキスタンで繊維工業が盛んな都市を探す。

**確認(解答例)** アジア諸国では、賃金水準の低さを生かした先進国のファブレス企業の委託生産が多く、ヨーロッパ諸国では、職人の高い技術によって生産される付加価値の高いブランド品に特化している。

**図版・写真解説**

▶ p.128 図「総輸出額に占める繊維製品の割合と主な国・地域の衣類の輸出入」/ 図「主な繊維製品の生産国」

先進国では繊維の生産は減少しているが、世界全体で見れば成長産業であり、中国やインドを中心に生産は拡大している。繊維原料には綿花や絹、羊毛のような天然繊維と、石油を原料とする化学繊維(合成繊維)がある。こうした繊維原料を糸の状態に加工する工業が紡績業である。綿紡績所では綿花を機械でつむいで綿糸が製造される。2020年の綿花の生産は中国、インド、アメリカ合衆国の順であるが、中国は世界最大の綿花輸入国でもあり、綿糸の生産量は世界の7割を超える。アメリカ合衆国とインドは、それぞれ世界第1位と第2位の綿花輸出国であるため、綿花の生産量と比べると綿糸の生産量は相対的に小さい。綿織物は綿糸を原料とする織物・布地全般を指し、織機を用いて製造される。生産上位国は綿糸と同じ順位であるが、中国の割合が低下している。

化学繊維の生産は中国が約7割を占めており、綿糸と並んで世界生産の中心である。中国は繊維工業の川上部門である紡績・紡織のみならず、川中部門の衣服生産においても世界最大の規模をもっている。そこで生産された衣服は、アメリカ合衆国、日本、EUなど、世界各地に輸出されている。

▶ p.129 図「ファブレス企業のしくみ」

ファブレス企業は製造を他社に委託していることから、通常ならば製造メーカーが抱える工場建設などのばく大な初期費用が不要となる。そして、その企業は販売促進や商品流通などの業務に集中できるため、市場のニーズや変化などに対応しやすいといった長所がある。その一方で、製造を委託しているため、生産に関わる技術の維持・継承は難しくなる、国外に製造を委託した場合は国内の産業が空洞化するなどの短所もある。現在、ファブレス企業はApple社や任天堂など国内外のさまざまな分野で見られ、半導体や電気・電子だけでなく、飲料、衣類、インテリアなどの分野においてもファブレス化が進んでいる。なお、ファブレス企業から委託されて半導体デバイスなどの製造を専門に行う企業は、ファウンドリ企業とよばれている。

▶ p.129 図「バングラデシュの縫製工場」/ 図「アジアの主な都市における日本の進出企業(製造業)の賃金水準」

衣類・繊維産業は技術的な水準が比較的低く、労働集約的な産業であるため、低賃金で多くの労働力が求められる。バングラデシュの人口は1億6822万(2020年)で、日本と同じような規模を有しているが、

1人あたりのGNIを比較すると、日本が4万540ドルであるのに対して、バングラデシュは2010ドル(2020年)である。このような賃金水準の差を生かし、安価に調達可能な労働力を背景とした、衣類・繊維産業がバングラデシュの主要産業となっている。その結果、輸出に占める衣類や繊維品の割合は約8割(2017年)となっている。近年はファスナーメーカーのYKKや、ユニクロを展開するファーストリテイリングなどの日本企業の進出も続いている。

▶ p.129 図「ブランド品のバッグの製造」

イタリアでは、「第3のイタリア」(→図p.340)とよばれる地域を中心に、熟練した技術をもつ職人によって高級バッグがつけられている。生産工程の合理化によって安価な製品が大量に製造される昨今、バッグをはじめとする高級な皮革製品は、依然として高い技術をもった職人の手によって製造されており、ヨーロッパでつちかわれてきた伝統技術をみることができ。こうした製品をつくる中小企業や職人の間には緊密なネットワークがあり、市場の動向に敏感に対応しながら、付加価値の高い製品を生産している。同様のネットワークは、繊維、家具、楽器などを製造する企業間にもみられる。

**本文解説**

▶ **繊維工業(p.128・1行目)**

繊維工業は、動物や植物に由来する天然繊維や化学的プロセスを経て製造される化学繊維を原料として糸や織物を生産し、またそれらを加工して衣類などを製造する工業である。綿花と羊毛、絹が天然繊維を代表する。綿花は古くから繊維原料として用いられており、18世紀のイギリスでインド産綿花を用いた紡績業の興隆が産業革命を引き起こしたことで知られる。

羊毛は、綿花が流入する以前のヨーロッパでは一般的な繊維原料であり、フランドル地方やヨークシャー地方で羊毛工業が盛んであった。しかし、綿工業のように機械化が進まなかったこともあり、徐々に綿織物に市場を奪われていった。

絹は養蚕により獲得される繊維であり、生糸や絹織物に加工される。歴史的には中国が生産の中心であり、ヨーロッパ諸国との間では重要な交易品となった。日本でも明治時代に殖産興業の一環として生産が拡大し、生糸の生産は一時期世界最大となった。

一方、化学繊維の原料は石油である。ナイロンやポリエステル、アクリルが化学繊維の代表である。1950年代にポリエステルを使った衣類が広まって以降、繊維生産に占める化学繊維の割合が増加している。

(2) 指導書 Web サポートコンテンツ

① 授業スライド

内容を Check!

- ◆ オリジナル教材の作成にも便利な PowerPoint ファイルと Google スライド版をご利用いただけます。
- ◆ 色覚に特性のある生徒に配慮した白黒反転版も収録しています。

↓ 教科書 p.256-257 に対応した授業スライドの例 (一部分を抜粋)

教科書 p.256~257

# 1 急速な経済成長を支えた産業の発展

第2部 現代世界の地誌的考察  
第2章 現代世界の諸地域  
4節 インド  
— 経済成長に関連づけて考察

学習課題

Q インドはなぜ、急速な経済成長を続けているのだろうか。

<学習のポイント>

- (1) インドの工業の発展を、経済の自由化という側面から考察する。
- (2) 近年、インドのICT産業が成長している背景を考察する。

## 自由化で進んだ経済の成長

- 独立後のインドの工業化
  - … 鉄鉱石や石炭などの豊かな鉱産資源をて自給自足型の工業発展を推進
  - 製品の国内生産は実現できたが、外国資本を排除したことで技術革新は後れた
  - 国際競争力の喪失
- 1980年代 政府による経済統制の緩和  
1991年～ 〔① 新経済政策〕を導入して、経済の自由化を本格的に推進  
→ 100%外国資本による事業も可能になり、工業生産は急速に成長

## 急成長した自動車産業 1

2000年代 〔② 自動車産業〕が盛んに自動車産業の集積地  
… デリーやマハーラーシュトラ州西部、ベンガルール、チェンナイなど  
→ 都市郊外の工業団地には国内企業のほか、外国資本の自動車の組み立て・部品工場などが進出

- インドの巨大市場
  - … 人口が多く、巨大な市場を抱える
  - 自動車の多くは国内販売
  - 近年、メキシコやアフリカ諸国などへの輸出も増加

## 急成長した自動車産業 2

256\_02\_インドの鉱工業

## 急成長した自動車産業 3

256\_03\_インドにおける自動車の生産台数の推移と乗用車販売台数の内訳

確認

Q インドの経済成長をけん引するICT産業は、どのような要因があって成長を遂げたのか、説明しよう。

↓ 白黒反転版の例

## 自由化で進んだ経済の成長

- 独立後のインドの工業化
  - … 鉄鉱石や石炭などの豊かな鉱産資源をて自給自足型の工業発展を推進
  - 製品の国内生産は実現できたが、外国資本を排除したことで技術革新は後れた
  - 国際競争力の喪失
- 1980年代 政府による経済統制の緩和  
1991年～ 〔① 新経済政策〕を導入して、経済の自由化を本格的に推進  
→ 100%外国資本による事業も可能になり、工業生産は急速に成長

(2) 指導書 Web サポートコンテンツ

② 授業プリント

内容を Check!

- ◆ オリジナル教材の作成にも便利な Word ファイルです。
- ◆ 授業スライド (本冊子 p.6) の付せん部分の重要用語を、穴埋めにした授業用プリントです。

↓ 教科書 p.256-257 に対応した授業プリントの例 (教師用解答)

年 組 番/名前

第2部 第2章 現代世界の諸地域 4節 インド — 経済成長に関連づけて考察	教科書	年 月 日
1 急速な経済成長を支えた産業の発展	p.256~257	

□ 学習課題

Q: インドはなぜ、急速な経済成長を続けているのだろうか。

<学習のポイント>

- (1) インドの工業の発展を、経済の自由化という側面から考察する。
- (2) 近年、インドのICT産業が成長している背景を考察する。

● 自由化で進んだ経済の成長

- 独立後のインドの工業化
  - … 鉄鉱石や石炭などの豊かな鉱産資源を用いて自給自足型の工業発展を推進
  - 製品の国内生産は実現できたが、外国資本を排除したことで技術革新は後れた
  - 国際競争力の喪失
- 1980年代 政府による経済統制の緩和  
1991年～ 〔① 新経済政策〕を導入して、経済の自由化を本格的に推進  
→ 100%外国資本による事業も可能になり、工業生産は急速に成長

● 急成長した自動車産業

2000年代 〔② 自動車産業〕が盛んに自動車産業の集積地  
… デリーやマハーラーシュトラ州西部、ベンガルール、チェンナイなど  
→ 都市郊外の工業団地には国内企業のほか、外国資本の自動車の組み立て・部品工場などが進出

- インドの巨大市場
  - … 人口が多く、巨大な市場を抱える
  - 自動車の多くは国内販売
  - 近年、メキシコやアフリカ諸国などへの輸出も増加

人材が多い  
トウェアの開発に携わる

使って即座に対応

ジープパークを整備

い仕事  
ばれる人々の出現  
という経済成長の回路が出現

る

因があって成長を遂げたのか、説明しよう。

〔①〕経済統制を緩和し、工業の自立や活動が自由となり、100%外国資本による事業を可能としたことや、もともと数学やコンピュータ技術の教育に力を入れていたこと、英語に堪能な人が多かったことを生かして、ICT産業が急速に進展した。

.....

.....

.....



# 新詳地理探究 演習ノート

定価：730円（本体664円＋税） ※価格は令和7年度のもので  
判型：B5判 ページ数：154ページ  
内容：教科書に完全準拠した構成で授業をサポートします。  
デジタル版もご用意しております。（→本冊子 p.10-11）

※ご採用校には、教師用赤刷り解答・解説を  
進呈いたします。  
※『新詳地理探究 指導資料 Web サポート  
コンテンツ付』をご購入いただくと、指導書  
Web サポートで準拠ノートの Word ファ  
イルをダウンロードいただけます。

↓教科書 p.98-100 に対応したページ（教師用赤刷り解答・解説）

## 2 節 食料問題

### 要点整理

- ① 飢食
- ② 飢餓
- ③ 人口
- ④ 食品ロス
- ⑤ 食料自給率
- ⑥ フードマイレージ
- ⑦ フェアトレード
- ⑧ 食育
- ⑨ 地産地消

### 1. 世界の食料問題

#### ◆食料分配の不均衡

・世界全体では食料の分配に偏りがあり、先進国では [ ① ] になっている地域がある一方、発展途上国では栄養不足や [ ② ] に苦しむ地域がある。

#### ◆発展途上国でみられる飢餓／◆先進国でみられる飽食

・食料の増産を上回るスピードでの [ ③ ] の増加や、干ばつや洪水、紛争や内戦などの影響で食料不足になる。→特にアフリカで深刻。  
・ [ ④ ] …本来食べられるのに廃棄されてしまう食品。

### 2. 日本の食料問題

#### ◆食料自給率の低下

・ [ ⑤ ] …国内で消費される食料のうち、国内で生産される食料が占める比率。  
→食生活の多様化や国内生産量の減少を背景に日本の [⑤] は低下し、世界有数の食料輸入国となっている。

#### ◆食料の輸入大国としての責任

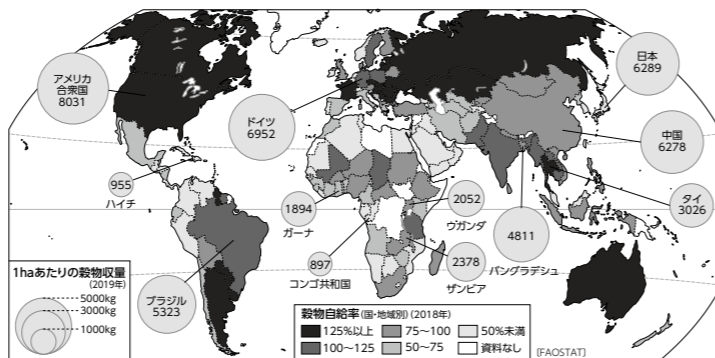
・ [ ⑥ ] …食料の輸入量に輸送距離をかけた指標。  
→生産・輸送に伴う資源消費と環境負荷に目を向ける。  
・ [ ⑦ ] …発展途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入する貿易。  
→発展途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を支援する。  
・国内では、食に関する知識や食を選択する力を習得する [ ⑧ ] や、地元で生産された農産物を地元で消費する [ ⑨ ] が促進されている。

農業の生産性が高く1haあたりの穀物収量が多い先進国には、アメリカ合衆国のような大規模な企業農業により大量の穀物を生産する国がある。一方、日本のように食生活の多様化などにより輸入農産物への依存度が高くなっている国もある。そのため、1haあたりの穀物収量の多さが、必ずしも穀物自給率の高さにつながるとはいえない。

### 作業

右下の図は、世界の穀物自給率と1haあたりの穀物収量を表している。穀物自給率と穀物収量の関係について述べた①～③の文のうち、正しいものを選びなさい。

- ① 1haあたりの穀物収量が多い国は、自給率も高い。
- ② 自給率が100%未満の国は1haあたりの穀物収量も少ない。
- ③ 1haあたりの穀物収量の多さと、自給率の高さは必ずしも関連していない。

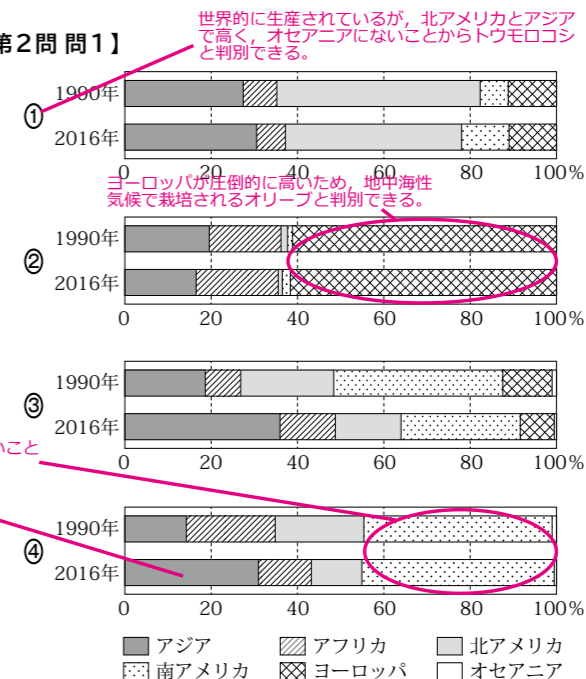


### 入試問題の読解テクニック - 農林水産業 -



#### 第1問【2019年度 センター試験 地理B 本試 第2問 問1】

次の図は、いくつかの農作物について、1990年と2016年の世界における生産量の割合を地域別に示したものであり、①～④は、オリーブ、オレンジ類、コーヒー、トウモロコシのいずれかである。コーヒーに該当するものを、図中の①～④のうちから一つ選べ。



北アメリカには、メキシコからパナマまでの諸国およびカリブ海諸国が含まれる。  
FAOSTATにより作成。

④

### ★ 解答のポイント ★

コーヒーは、雨季と乾季が明瞭で比較的高温の地域を好み、北回歸線と南回歸線の間のコーヒーベルトで栽培されることが多い。この知識だけで北アメリカやヨーロッパの割合が高い①と②は除かれる。残った③と④を見ると、④がヨーロッパではほとんど生産されていないことから、これがコーヒーであることが分かる。よって、正答は④である。

### ★ 読解テクニック ★

この問題における必要最低限の知識は、トウモロコシ＝アメリカ合衆国と中国、オリーブ＝地中海地域、コーヒーベルト＝低緯度地域、の三つである。これを踏まえると、選択肢のなかで北アメリカとアジアの占める割合が高い①がトウモロコシ、ヨーロッパの割合が最も高い②がオリーブであることはすぐに判別できる。③と④で迷うが、コーヒーは低緯度地域でしか栽培されないことから、ヨーロッパで栽培されているとは考えにくい。よって、ヨーロッパの割合が非常に低い④がコーヒーだと判別できる。代表的な農作物については、教科書 p.86 や p.90～91、巻末2～3などを用いて、栽培地域や栽培条件を押さえておきたい。また、グラフを見る前に、それぞれの農作物の特徴や主な生産国をイメージすると、正答を導きやすくなる。なお、この問題のなかの「オレンジ類」の生産国は、教科書などではあまり見かけないうえに、かんきつ類＝地中海地域というイメージがあるかもしれないが、2019年現在の生産国第1位は中国（26.4%）で、次いでブラジル（15.8%）である。生産地のイメージが先行する農作物は、オレンジ類のほかにぶどうやバナナがあるが、ぶどうは生産国第1位は中国で、バナナの生産国第1位はインドである（いずれも2019年）。このようなこともあるので、ふだんから統計資料を見ておくことも忘れないでおきたい。

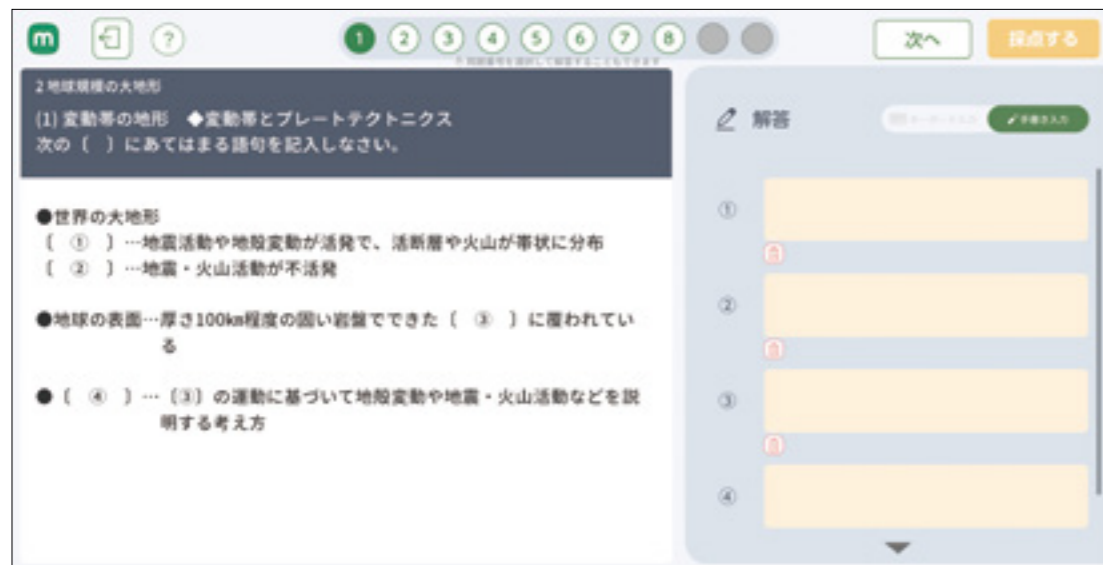
# デジタル準拠ノート 新詳地理探究

定価：980円(本体891円+税) / セット版(書籍+デジタル)1,480円(本体1,345円+税) ※価格は令和7年度のもので。

- 内容：(1) 教科書準拠ノートをタブレット用に再構成、正誤の自動判定機能を搭載しています。  
 (2) 資料の読み解き問題や地図問題を収録しています。  
 (3) 先生用管理ページで、生徒の学習進捗状況を確認できます。  
 (4) 作問ツールで先生が問題を作成、配信もできます。

## 生徒向け機能

### 教科書準拠の問題にタブレットで取り組める



- ◆タブレットに直接入力することで解答できます。
- ◆解答画面で、手書き or キーボード入力を選択できます。

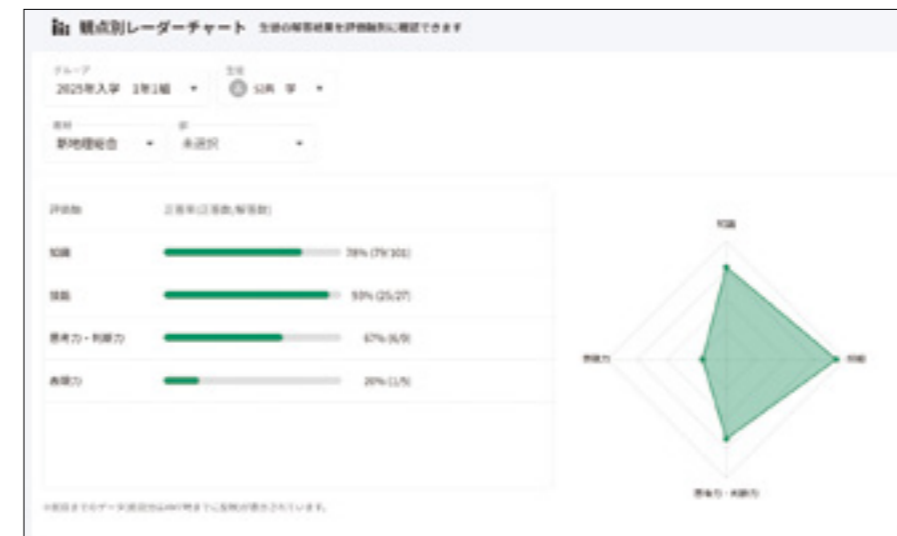
### 解答は自動で正誤判定、繰り返し学習できる



- ◆解答は自動で正誤判定されるので、先生のご負担軽減にもつながります。(記述問題は自己採点形式)
- ◆繰り返し何度も演習することができるため、基礎知識の確実な定着が図れます。

## 先生向け機能

### 評価をアシスト



◆生徒ごとに課題の提出状況を確認できるほか、解答結果を自動集計できます。また、各問題に埋め込まれている評価軸(タグ)をもとに、正答率を自動集計してグラフ表示できる「観点別レーダーチャート」など、生徒の学習状況を“見える化”できる機能が充実しています。

※デジタル準拠ノート(イメージ)紙面は新地理総合の例

### 指導をアシスト



- ◆既存の問題だけではなく、先生が独自に問題を作る「作問ツール」も収録。出題形式や評価軸(タグ)も任意に設定できるほか、「指導書 Web サポート」(別売、→本冊子 p.2-3)収録の教科書掲載図版や先生がお持ちの画像を取り込んで作問に活用することもできます。作成した問題を生徒に配信し、Google Classroom 上で生徒に通知することも可能です。
- ◆単元ごとに、公開・非公開や提出期限の設定を行えます。



# 帝国書院ウェブサイト 会員登録方法のご案内

指導書 Web サポートのほかにも、ChiReKo (定期刊行冊子) のバックナンバーや、写真・動画、統計など、あらゆる情報を掲載！



帝国書院ウェブサイト ログインページ▶



帝国書院ウェブサイトのトップページ右上の「ログイン」ボタンをクリックします。



「会員登録」をクリックして、登録画面へ。

届いたメールに記載の URL にアクセスして  
パスワードや所属先などの必要事項を入力

※メールは迷惑メールに入っている場合がございます

必要事項の入力は、3分ほどで済む簡単な  
ものです。



会員登録が完了し、ログイン後は「会員ページ」から、Web サポートなどの各種サービス  
を閲覧することができます。

※サイト内の画面は、変更になる場合がございます